

# 平成 17 年度 全国漁協交流集會を熊本市にて開催！

～ 台風・赤潮被害・不漁に「ぎょさい」が機能を發揮！～



濱熊本県漁業共済組合長による歓迎挨拶

7月5日(火)熊本県熊本市において、未加入漁協等の役職員及び加入推進協力員の皆様に、実際に「ぎょさい」加入に携わった方々の体験談などを聞き「ぎょさい」の重要性を再認識していただくことなどを目的とした「平成17年度 全国漁協交流集會(加入推進協力員研修会)」を開催いたしました。北は青森県から南は沖縄県まで全国16県から漁協長など約80名の参加をいただきました(7月19日付 水産経済新聞に特集記事が掲載)。

濱熊本県漁業共済組合長の歓迎挨拶の後、来賓の水産庁漁業保険課坂本係長、熊本県林務水産部田川部長からご挨拶をいただき、議事に入りました。議事は基調報告として「漁業共済事業の概要」を本会常務の石坂が説明した後、特別講演に移りました。



水産庁漁業保険課坂本係長による来賓ご挨拶



熊本県林務水産部田川部長による来賓ご挨拶

特別講演 「ぎよさいが漁業経営を支える」 天草漁業協同組合参事 森口 哲雄 氏  
合併前の天草町漁協では、昭和 46 年に小型底曳網漁業 16 隻が加入したのを端緒に、先達の役職員の努力によって小型定置網、刺網、大型定置網、はまち養殖、たい養殖と当地で行われる全ての漁業種類で「ぎよさい」に加入してきた経緯を説明。以来、平成 16 年度までに負担掛金の約 2 倍に相当する共済金の支払を受け、漁業者の経営と組合経営に役立

ってきており、特に昭和 57～59 年の小型底曳網漁業の不漁、平成 3 年 9 月に熊本を襲った台風 12 号の被害、平成 15 年に本渡市管内に発生した赤潮被害などを紹介し、『災害が起きたらどうなるか、親身になって「ぎょさい」を推進してきたが、共済金を支払う際には漁業者から「本当に助かった」と言われる』と経験談が語られました。また近年の漁獲量の低下や魚価の低迷など厳しさを増していく環境の中、今後ますます「ぎょさい」の重要性が高まっており、漁協の各支所の加入状況の格差を解消していきたいと語るとともに、漁業経営を守るための地方自治体による掛金助成と漁業者にとってより加入しやすい制度改善をと訴えました。



森口氏による講演

特別講演 「水産物消費の変化とその対応」 熊本学園大学商学部助教授 波積 真理 氏  
加工・調理済み食品を持ち帰る「中食」が増加し「安全・健康・本物」志向が強まっている消費者の動向と、生鮮コンビニの広がりといった流通の変化を解説。その上で、今後は漁業者も生産するだけでなく消費者を視野に入れたマーケティングの活用が必要であると強調し、ブランド化の事例として熊本県・大矢野町漁協（平成 17 年 4 月より天草漁協大矢野支所）のハモの取り組みを紹介しました。これは主に大消費地に出荷していたハモの一部を地元の旅館に郷土料理として提案して新たな販路を開拓し、メディアで紹介され好評を博した結果、ハモの魚価が上昇した事例。個別ブランド化の次の展開として、地域における他の産業と連携した産地ブランド化を目指すことは、水産物の特性を生かした有力な方向であると語り、講演を締めくくりました。



波積氏による講演

参加者の皆様には様々な人の経験談に触れたり、意見交流を持っていただいて、漁業経営を支える『ぎょさい』の役割と重要性を改めて認識いただけたものと考えており、今後の加入に結びつくことを切望しております。

最後になりましたが、ご多用中にもかかわらずご参加いただきました皆様に心より御礼申し上げます。